

編集後記

・地域の教育懇談会、PTA、母親大会、労働組合などの諸団体から講師依頼がたくさんきています。5月末から1カ月間に20カ所で講演・報告をおこないました。子ども、学校、貧困、特別支援、発達障害、組合運動・・・さまざまなジャンルのテーマに応えられる講師陣・研究協力者がいます。どこでも、何人でも、「予算ゼロ」でもご相談にのりますから遠慮なく連絡してください。

・派遣村、反貧困運動で活躍している湯浅誠さんの話を聞きたいという要請が多くきています。北埼玉の中学校では全校集会で、北部の高校では教職員の「人権教育研修会」で講師をやることになりました。超多忙な人なのでつかまえるのは困難ですが学校の「公式行事—進路問題、人権問題」では最適な方です。ご検討下さい。

彼が最近、中高校生向けに書いた「どんとこい、貧困-自己責任よこれぞさらばだ」(理論社・よみみちパン!セ)をお勧めします。進路指導、「人生」

指導で子どもたちに語るときの大切な指標がわかりやすく書かれています。努力しないと「負け組」になるという「脅し」、入試・就職試験から逆算して今やるべきことの一時的強要—「脅しと逆算方式」の進路指導から脱皮しなければならない必然性が書かれていて、我が身をふりかえるのに最適な本です。

・毎週土曜日、研究所で教員免許相談を4月から続けています。6月に入って相談者が少なくなり、皆さん手続きなど終えたと思っていたら6月27日に今年度該当者でまだ受講手続きを一切やられていなかった方から緊急相談がありました。担当の武田さんは関東ブロックの大学等の講座の空き具合をチェックしているのですぐ対応できました。受講漏れを一人も出さないようもう一度お互いに確認を。

・手前味噌ですみません。51号(春号)が好評です。読みやすくなった、テーマ設定が適切、気楽に読めるようになったなどの声が寄せられています。編集で特に苦勞するのが「さいたまここに人あり」です。地道にこつこつと地域で仕事等々を続けていながらキラリと光る生き方の人を探すのが大変です。どなたか紹介してください。

・7月3日に世取山洋介さんの講演会が教育会館で開かれました。70名の参加で「新自由主義への対抗軸—競走と統制の教育から人格を育てる教育を」という堅いテーマの講演会でした。大好評でした。その中で全国学力テストが毎年、全学年で行われているアメリカの報告がありました。数年間行われて結局「テスト成績が家庭の豊かさ・貧しさをあらわしている」ということがはっきりしたということです。

日本でもそうです。日本が見習ったイギリスではとっくにやめてしまいました。それなのに「学力の結果を学校別に明らかにせよ」と要求している知事があります。そんなことでお金を使うのなら教職員の定数増など条件整備につかうべきという思いをいっそう強くした学習会でした。(白)

次号 53号 10月15日発行

特集「子どもの貧困と教育」

さいたまの教育と文化 2009年夏号 NO.52

(2009年7月15日発行)

発行／

さいたま教育文化研究所

さいたまの教育と文化編集委員会

(責任者 上原弘道)

さいたま市浦和区高砂 3-12-24

埼玉教育会館 6階

TEL 048-831-4266,2614

FAX 048-834-3167

Eメール kenkyujo-1@kyouiku-net.org

さいたま教育文化研究所 HP

http://www.geocities.jp/s_kenkyujo/

頒価 500円

表紙デザイン=六月舎

さいたま教育文化研究所は埼玉県教育公務員弘済会教育研究事業助成を受けています。

購読を希望される方へ

『さいたまの教育と文化』は年4回の季刊です。定期購読を希望される方は、研究所まで。